

令和5年10月10日（火）

## 「オオカミと少年」

ある村に、ヒツジ飼いの少年がいました。  
来る日も来る日も、仕事はヒツジの番ばかり。  
少年は退屈しのぎに、ちょっといたずらをしたくなりました。  
そこで少年は、とつぜん大声をあげました。  
「たいへんだ！オオカミだ！オオカミだ！！」  
村人が驚いて、駆けつけてきました。  
それを見て、少年は大笑い。  
何日かして、少年はまた大声をあげました。  
「たいへんだ！オオカミだ！オオカミだ！！」  
村人は、今度も飛び出してきました。  
少年はそれを見て、またもや大笑い。  
ところがある日、本当にオオカミがやって来て、ヒツジの群れを襲いました。  
少年はあわてて、叫び声をあげました。  
「オオカミが来た！オオカミが来た！本当にオオカミが来たんだよ！！」  
けれども村人は、知らんぷりです。  
何度も嘘を言う少年を、誰も信じようとはしなかったのです。  
かわいそうに、少年のヒツジは、みんなオオカミに食べられてしまいました、とき。

このお話しは、普段から嘘ばかりついている人はたとえ本当の事を言っても、誰にも信じてもらえなくなるという例え話です。普段から正直に生きることで、他の人からの信頼を得られるようにしましょう。